

平成 28 年度 課題評価結果 (抜粋)

平成 29 年 2 月 16 日

総合科学技術・イノベーション会議

戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) ガバニングボード

■ 次世代パワーエレクトロニクス

(1) 指摘事項

【肯定的評価】

- ・ 更なる省エネ化社会の実現のために、SIPとして取組む意義がある。
- ・ アウトプット目標、マイルストーンの設定は適切であり、GaNウエハ技術では前倒しで成果が得られたこと、通電劣化の解決に目途が立ったこと、SJ (スーパージャンクション) 等の先進的課題も進捗していることなど各項目における進捗は順調であり、実用化に向けて所望の成果が得られるものと期待される。
- ・ 多岐に渡る技術課題を統合して実用化を進めつつあることは高く評価できる。
- ・ 大きな市場規模が想定される分野であり、出口戦略が極めて重要であるが、SIP終了後の事業化、量産を見据えた出口戦略が明確であり、体制作りがしっかりと行われている。
- ・ 自動車分野、電力機器分野におけるアウトカム目標は明確に設定されている。他分野への波及効果に言及できればさらに評価し得る。
- ・ 受動部品開発の推進 (コンソーシアム形成) や標準化へのアプローチの意義は大きい。
- ・ PDのリーダーシップの下でテーマ間の情報共有や横断的な議論が適切に行われ、目標の見直しに常に努めている点は評価できる。

【改善すべき点】

- ・ 電力分野で産業界への展開をさらに加速する道筋を示すべきである。
- ・ 成果の見える化を一層進めるべきである。
- ・ 非常に進歩の早い分野であり、若い世代を含めた切れ目のない人材育成を進めるべきである。

(2) 総合評価結果

平成 28 年度の総合評価結果は「B+」であった。